

2022 年度秋季大会実施報告

大会・企画委員会, LOC (北海道大学)

秋季大会実施報告 (大会・企画委員会)

2022 年度秋季大会は、札幌市の北海道立道民活動センター「かでる 2・7」において、10 月 24 日 (月)～26 日 (水) に開催され、619 名 (会員 510 名, 非会員 109 名) の参加がありました。現地開催は 2019 年以來の 3 年振りとなりましたが、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 流行の影響を鑑み、例年の現地開催とは異なる方式での開催となりました。プログラム確定後の講演発表数は口頭 231 件、ポスター 143 件の合計 374 件で、発表キャンセルは口頭発表が 3 件、ポスター発表が 1 件ありました。また、日本地震学会賞 1 名、若手学術奨励賞受賞者 2 名による記念講演がありました。

今年度の秋季大会では、「AI による地震学の発展」「北海道周辺の沈み込み帯における地震・津波に関する諸現象」「ベイズ統計学による地震データ解析とモデリングの深化」の 3 件の特別セッションが開催され、活発な議論がなされました。

講演申込、早期参加登録と、参加登録料及び投稿料の支払いはウェブサイト上で受け付けました。今年度は現地の受付周辺での密を回避するために、参加者に名札を印刷・持参して頂く方式としました。また、講演予稿集は電子版のみとし、早期参加登録をして頂いた会員には、予稿集ダウンロードのための URL とパスワードをプログラム公開時期にあわせて連絡しました。

今年度は、大会 1 日目の午後に、日本地震学会賞、若手学術奨励賞の受賞者による記念講演を設けました。大会 3 日間ともに 4 会場同時並行で口頭セッション (受賞記念講演を除く) を行い、口頭発表の時間は原則として 1 件あたり 15 分 (講演 12 分, 質疑 3 分) としました。なお、ポスターセッションについては、会場内の密対策のために、ポスター発表のコアタイムと口頭発表を同時並行で実施しました。

今年度も、学生による優れた研究発表を奨励し、研究発表技術の向上を目的とした「学生優秀発表賞」の審査をしました。口頭発表とポスター発表のどちらも対象です。今年度の審査員には理事、代議員、大会・企画委員会委員から 32 名が選出され、のべ 60 件の発表を審査しました。選考結果と受賞者については、本ニュースレター NL-5-16 ページに発表されています。

秋季大会の準備、運営面では、北海道大学の地震学会員からなる LOC の皆様に全面的にお世話になりました。LOC の皆様の献身的なご尽力により、札幌大会が円滑に

運営されたことに、大会・企画委員会から心よりお礼を申し上げます。

さて、来年度の秋季大会は横浜市のパシフィコ横浜において、2023 年 10 月 31 日 (火)～11 月 2 日 (木) の日程で開催される予定です。今年度に引き続き、会員の皆様の積極的な投稿・参加を期待しております。

最後になりましたが、各セッションの座長および学生優秀発表賞の審査員をお引き受けくださった皆様のご協力に感謝申し上げます。

LOC からの報告

1. 秋季大会

2022 年度の秋季大会は、2019 年度の京都大会以来、3 年ぶりの現地開催となりました。北海道大学の会員で LOC を引き受け、開催日程の検討や会場選定作業を始めたのは、この 2019 年京都大会直後でした。当時は、新型コロナウイルス感染症の流行前で、通常通りの現地開催を前提に準備を開始しました。

札幌は全国有数の観光地であり、9～10 月には札幌市内各所で様々な秋のイベントも催されます。そのため LOC では、航空券やホテルが取りにくい連休から会期を離すことや、施設予約が困難な週末開催を避けるなど、様々な点を勘案し、10 月中～下旬の平日開催とすることにしました。ただ会場選定には大変苦労しました。口頭 4 会場とポスター会場、団体展示場の全てをまかなえる施設は限られる上、北大キャンパス内での開催の場合、複数の離れた建物に分散し、会場間の移動に時間がかかることも課題でした。そこで LOC では、屋外移動が不要な単一施設での開催方針としましたが、複数の会場候補の改修工事期間と重なるなど、条件に見合う会場選定には様々な困難もありました。その後、札幌コンベンションビューロにもご協力頂き、2020 年春に、北海道立道民活動センター「かでる 2・7」での開催を決定しました。

その頃から、現在まで続くコロナ禍に見舞われ、会場の人数制限問題も大きな懸念事項となりました。それでも、北海道や施設側が制定した感染防止策を徹底することを条件に、人数制限を緩和した状態で (つまり通常定員で) の会場使用を許可して頂きました。今大会は、そのような条件下での開催であったため、当日は、マスク着用や発熱確認、マイク等の消毒、窓開け換気、立ち見の禁止、会場内の密対策など、参加者の皆様にはご不便もあったかと思われます。種々の制限下でも、参加者の皆様のご協力のおかげ

げで、大きな混乱もなく、無事に3日間の会期を終えることができました。

今大会では、口頭会場やポスター会場に多くの参加者が集中するのを避けるための策として、AGUのように、口頭発表とポスター発表のコアタイムを同時進行する形としました。結果的に、口頭会場の定員オーバーやポスター会場の混雑も避けられました。またポスター会場は施設の制約上、多数の会議室に分かれる形となりましたが、パネル間の距離が十分に保たれ、比較的余裕を持ってご議論頂けたものと思います。

3年ぶりの現地開催について、参加者の皆さまから、対面での開催を喜んで下さるご意見を数多く頂きました。ご不便な点もあったかと思いますが、対面でこそできる雑談や情報交換、種々の議論の機会を提供できたことを大変嬉しく思います。研究者同士の何気ない会話の中から、新しい研究の芽が生まれることは、我々会員が一つの会場に集って議論することの大きなメリットといえるでしょう。

今大会では、現地での発表は実施できましたが、大人数での飲食を伴う懇親会については、残念ながら開催できませんでした。次年度以降、より状況が改善され、多くの会員同士が歓談できる機会が復活することを祈りたいと思います。

2. 一般公開セミナー

2022年度の一般公開セミナーは、秋季大会前日の日曜日に、秋季大会と同一会場（かでのホール：秋季大会のA会場）にて、以下の通り開催されました。当日の参加者数は127名でした（なお、事前のウェブ登録者数は165名、当日登録者も含めて176名）。

タイトル：「北海道の大地震と大津波」

日 時：2022年10月23日（日）14:30-17:00

場 所：北海道立道民活動センター「かでの2・7」かでのホール

内 容：

- ・高橋浩晃（北海道大）「北海道の日本海側～内陸部で起こる地震を知る」
- ・谷岡勇市郎（北海道大）「十勝・根室沖の超巨大地震と巨大津波」
- ・大木聖子（慶應義塾大）「北海道の巨大地震を伝える未来の物語～中学生による「防災小説」の取り組み～」

現地開催にあたり、北海道大学の院生・学部生による会場アルバイトの皆さんにご協力頂きました。彼等の助けなくしては、今大会を円滑に実施することはできませんでした。また開催準備から大会運営までご尽力頂いた学会事務局、大会・企画委員会をはじめ、参加者の皆様、関係各位に、深く感謝申し上げます。

北海道大学 LOC：

谷岡勇市郎、吉澤和範、勝俣 啓、村井芳夫、高田陽一郎、大園真子、山中悠資、高橋浩晃、青山 裕、古屋正人、高井伸雄、西村裕一、蓬田 清

大会プログラムの修正（大会・企画委員会）

○キャンセルされた発表の講演番号：S20-04, S09-16, S23-02, S21P-13

○出展団体（順不同）

株式会社 クレアクト

株式会社 勝島製作所

白山工業株式会社

株式会社 近計システム

シュプリンガー・ジャパン株式会社

国立研究開発法人海洋研究開発機構

株式会社 ジオシス

株式会社 ホームサイスマメータ

Progress in Earth and Planetary Science (PEPS) 誌：公益社団法人日本地球惑星科学連合

株式会社 東京測振